



## 学部長ごあいさつ

保健医療学部長 大日向 輝美

夏に向かう北の美しい季節となりました。保護者の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本学の教育・研究等にご理解・ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

去る3月15日、保健医療学部第23期生看護学科50名、理学療法学科20名、作業療法学科20名が卒業を迎え、学び舎を後にしました。看護師、保健師、理学療法士、作業療法士の国家試験は、受験者全員が無事合格し、卒業生は4月より医療専門職としての道を歩み始めています。看護師国家試験は16年連続100%となり、連続合格年数で我が国トップの記録を更新しました。理学療法士、作業療法士国家試験につきましても、全国平均70、80%台のところ、本学は100%と快挙を達成しております。学生たちの誠実な学習姿勢と研鑽努力のみならず、保護者の皆さまのご支援あってのことと心より感謝申し上げます。



新年度となり早2ヶ月。新入生も随分と大学に馴染んでまいりました。6月の大学祭、夏の東日本医科大学学生総合体育大会に向けて、課外活動もいよいよ本格化しており、学内は若いエネルギーで活気づいています。学生たちは今年度の大学祭のテーマに「結（ゆい）」を選びました。学部・学科や学年の垣根を超えて結びつき、ひとつの目標に向かって皆の力を結集したいという願いを込めたと聞いています。大学祭は学生だけのものではなく、教職員、地域住民が参加する交流の場でもあります。地域に開かれた大学として多くの人々と触れ合い結びつきを強めるとともに、医大生独自の趣向をこらした、実りの多いイベントにしてほしいと願います。

保護者の皆さまにおかれましては、今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 【2019年度 学事予定】 (1~4学年)

4月 5日	入学式
4月 8日 ~ 4月10日	「保健医療総論 1~4」
6月 6日 ~ 6月 9日	大学祭
6月25日	大学記念日
7月22日 ~ 8月 2日	前期定期試験 (4年生 看護)
8月 6日 ~ 9月 1日	夏季休業 (1・2・3年生)
8月 5日 ~ 8月25日	〃 (4年生 看護)
8月12日 ~ 9月16日	〃 (4年生 理学)
7月29日 ~ 8月11日	〃 (4年生 作業)
9月 2日 ~ 9月20日	前期定期試験 (1・2年生・3生理学)
9月 2日 ~ 9月13日	〃 (3年生看護・3年生作業)
9月30日	後期講義開始 (1・2年生)
	〃 (3年生 理学)
	〃 (3年生 作業)
10月15日	
10月17日 ~ 10月19日	体育祭
12月 6日	文化芸術祭
12月23日 ~ 1月 5日	冬季休業
2月18日 ~ 3月 5日	後期定期試験 (1・2年生)
1月27日 ~ 1月31日	〃 (3年生 理学)
2月18日 ~ 3月 5日	〃 (3年生 作業)
3月19日	卒業式



入学式



保健医療総論

## 看護学科長 城丸 瑞恵



2019年3月15日(金)に卒業式が行われ、看護学科50名はみな晴れやかな笑顔で卒業しました。今年度も全員が看護師国家試験に合格し、100%の合格率を連続させています。同様に保健師も全員が合格して本学の学生の頼もしさを実感するとともに、保護者の皆様のご支援に深く感謝しております。ありがとうございました。卒業生の内、37名は看護師として社会人になり、勤務先は札幌を含む道内が8割を占めていますが、東京・千葉など道外を選択した人もいました。また保健師として勤務する人や助産学専攻科および本学大学院への進学者も数名おりました。各自が本学の卒業生としての誇りを胸に、それぞれの道に希望を抱き進んでおります。

4月5日(金)には50名の新入生を看護学科に迎えました。1人1人の表情は緊張しつつも期待に満ちあふれていました。数日間にわたる新入生オリエンテーションにも積極的に参加し、看護学科・理学療法学科・作業療法学科合同で取り組むグループワークを通して学科内外の交流もできています。さらに先輩たちと楽しそうに会話する姿もみられました。2年生は疾病に関する理解や看護の方法について学ぶ専門基礎科目が増え、後期には札幌医科大学附属病院で実習があります。3年生は多様な領域の看護方法について学ぶ専門科目が増え、後期には本格的な実習が行われます。4年生は、引き続き専門科目を学習するとともに、「看護学研究」「看護技術総合演習」「看護統合実習」などがあり、これらの科目を通して既習の知識と技術を統合して4年間の総まとめを行います。これからも教職員一同、学生1人1人の個性や意欲を大事にしながら、豊かな人間性と高度な実践力の育成に向けて努力する所存です。保護者の皆様におかれましては、引き続きご支援よろしくお願ひいたします。

## 理学療法学科長 片寄 正樹



今年の春も20名の卒業生を送り出し、新入生20名を迎えました。今春卒業生の国家試験合格率は100%となり、ここ数年の実績を維持しています。さらなるキャリアへ歩み出した多くが臨床現場への就職を選択する一方で、5名が大学院へ進学し2名が本学附属病院PTOT研修センターでの臨床研修を選択しました。今年迎え入れた新入生は、全てが道内からの入学となりました。オリエンテーションでは新入生一人一人から自己紹介をしてもらいますが、本学への志望動機、将来への夢を語る希望に満ちた言葉は教員にとっては毎年新鮮に心に響くものであり、これまで卒業した学生の新入時の言葉や姿、そして現在の活躍を想起させてくれます。

新入生の将来への夢、そして卒業生のキャリア形成をしっかりとみつめる例年の春の光景ではありますが、学生の「自立した学びの姿勢」の重要性を強く再認識する季節でもあります。保護者の皆様からのご支援も賜り、優れた教育を学生に提供して参りたいと思います。何卒よろしくお願ひいたします。

## 作業療法学科長 仙石 泰仁



平成30年度版の高齢社会白書によると、我が国の高齢化率は2060年には38.1%になることが推定され、2.6人の働き世代が高齢者1人を支えることになると言われています。この様な将来像の中で、保健医療福祉に携わる作業療法も医療機関でのリハビリだけでなく、在宅医療を支える役割や疾病にかからない予防的な取り組みにも、その職域を広げることが期待されています。更に、昨年発生した地震のような災害後の被災者への支援にも、積極的に関わっていくことも求められてきています。

昨年度、本学科では現役生20名、既卒生1名の21名が国家試験を受験し全員が合格しました。17名が道内の医療機関や福祉機関、3名が道外の医療機関、そして1名が本学大学院へ進学することになりました。しかし、彼らが本当の意味で作業療法士として対象者を支える存在となるためには、まだまだ自己研鑽を積まなければなりません。学科としても卒業生を対象とした研修会を開催するなど、そのサポートを行っています。また多くの卒業生が教員の開催する学習会にも参加し、様々な社会的ニーズに即応できる人材となれるよう努力をしております。大学での教育はこの様な生涯学習を行える基礎作りという側面もあり、自ら課題を見つけ、調べ解決していく学習姿勢を身につけるようにカリキュラムが編成されています。教職員も学生諸君が更に学業に打ち込めるように、様々な支援をしていきたいと思っており、ご家族との連携が必要な際には何卒ご協力をいただけますようお願いいたします。

\* 保健医療学部各学科において取り組んでいる研究についてご紹介します。

## 出産施設に長距離移動が必要な妊婦の心配内容と準備について



出産施設の減少により、北海道では出産施設まで長距離移動が必要な妊産婦の方がいます。長距離移動をする妊産婦の方やご家族の不安や心配を解消し、安全な出産に向けた支援の検討が必要と考え、妊婦の方の不安や心配と出産に向けた準備について現状を明らかにするためインタビューに調査を行いました。対象は出産施設まで100km前後・2時間前後の場所に住む妊婦の方でした。

対象妊婦の方達は距離があることへの緊張感、移動中の異常発生への不安を抱え、救急車の手配なども考慮していました。一方で自分と家族で何とかできると考え、入院時にはすぐに移動できるよう入院用荷物を常に車に積んでおく等の備えをし、家族で移動方法を打合せていました。出産について学ぶ、または相談する機会は、妊婦健診時の産科医や助産師・看護師との接点があげられましたが、通院に時間がかかる、必要性を感じないなどの理由により母親学級にはほぼ参加しておらず、身近な人の体験談を参考として重視していました。

長距離移動が必要な妊婦の方達は出産に向け自ら準備に取り組んでいましたが、不安・心配の解消のため専門的な知識に基づいた相談体制づくりが今後の課題だと考えられました。

(看護学科：講師 林 佳子)

## 運動によって動脈硬化を改善できるか？ - 動脈硬化に影響する因子の解明 -

動脈硬化は末梢の動脈だけではなく、脳の血管にも生じ、脳梗塞や脳出血などの危険因子となります。我々の研究グループでは、運動中や運動前後の脳への血流を超音波エコーで測定し、どのような運動が動脈硬化の改善に有効かを検討しています(図1：運動中のエコー測定)。



図1

さらに、動脈硬化にはどのような因子が影響しているかを検討するために、閉経に伴う女性ホルモン(例：エストロゲン)の変化が、脳の血管機能に与える影響を明らかにしようとしています(図2：女性ホルモンと脳血管の機能)。

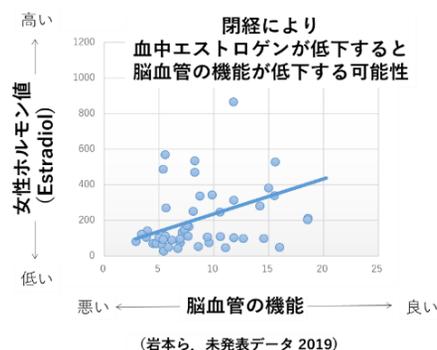


図2

(理学療法学科：助教 岩本 えりか)

## 気持ちの落ち込みや考え方に働きかけるプログラムの効果について

人の感情(落ち込み、不安、など)には、考え方や行動が強く影響します。作業療法には様々な治療的な視点がありますが、私は「人の考え方にはどんな特徴があるのか」をゲームやクイズを用いて楽しく学習し、考え方と症状との関連性や「普段の生活で症状にどう対処できそうか」について複数の参加者で話し合うプログラムを、精神科病院の作業療法の中で実施しています。

入院治療を受けている方を対象としてプログラムを週に1回、3ヶ月ほど継続実施するのですが、その前後で心理検査や症状のチェックリストの結果を比較分析することで効果を検証しています。現在のところ、ストレスのかかる場面で前向きに解釈しようとする傾向が高まり、うつや妄想といった病気の症状が改善するということが、統計学的分析によって示されています。

精神科の病気の症状は、日々の生活の様々な場面で生じるストレスと密接に関連しています。そのため、「自分にはどんなことがストレスで、その時にどんな考え方をしがちで苦しむことが多いのか」を患者さん自身が理解できること、症状に対処できるようになることが大切です。今回のように臨床現場でプログラムの効果を検証する研究を行うことで「どんな形で学習できるとより理解しやすいのか、より楽しみながら学習できるのか」を模索することにつながっています。



プログラムの様子

(作業療法学科：講師 森元 隆文)

### 保健医療学部「医療接遇特別講演会」について

保健医療職は適切な医療技術を対象者に提供することが重要であり、そのために必要な知識や技術を持っている必要があります。一方で対象が人であるという特徴もあり、相手の気持ちを支え、安心感を与えながら、納得していただいた状態で支援を行うことも不可欠なことです。また、支援は様々な専門職によるチームで行われるために、チーム内の意思疎通を図るために、円滑なコミュニケーションがよい支援結果に影響するとされています。

本学部では入学時より対象者への接遇や対象者・支援チームでのコミュニケーション能力を育むために、キャリア支援として「新入生フォーラム」「保健医療セミナー」「医療接遇特別講演会」を実施しています。

特に4年生の時点で行われる「医療接遇特別講演会」は、医療職一対象者、医療職種や関連職種間におけるコミュニケーションの実践的な方法を学ぶ場として実施しています。

平成30年度のテーマは「医療人としての接遇マナーについて」とし、安心して安全な医療環境を提供するために必要なチームの作り方・対人関係のあり方について、福岡かつよ氏（ラ・ポール株式会社）をお招きし、講演を行っていただきました。講演会では、コミュニケーションには言語だけでなく、身だしなみや表情・身振りなどの非言語的な要素の重要性を意識することが重要であること、一人一人の対象者の状況を理解し、相手が心地よいと感じる関わりを、心を通わせながら実践していくことで信頼される医療者になっていくことを、グループワークなども行いながら学ぶことが出来る内容でした。就職後の自身の業務に役に立つと9割以上の学生が感じており、今後も継続した開催を予定しています。



(保健医療学部 教務委員長 仙石泰仁)

### 保健医療学部の実習着が刷新されました

今年度入学生より保健医療学部の学生が着用する実習着が新しくなりました（カタログより写真参照）。

これまでの実習着は昔ながらの白ベースの実習着であり、通気性、伸縮性も決して高いとは言えない素材でした。

今回、新しくなった実習着は近年の病院スタッフが着用しているデザインと似たようなものとなっています。これまでのものに比べ、通気性にも優れ、かつ伸縮性も高くなっているので、患者さんを前に動きなれていない学生であってもストレス無く動ける素材となっています。また、新しい実習着の左袖には札幌医科大学の校章が付き、さらに身の引き締まる気持ちで実習に臨めることと思います。新しい実習着が新入生から変わるとのことで、それを聞いた在校生は「デザイン、機能性ともに新しいほうが断然よい！」と、とても羨ましがっていました…。



(理学療法学科：講師 菅原 和広)

## 危機対策マニュアル【学生用】の作成について

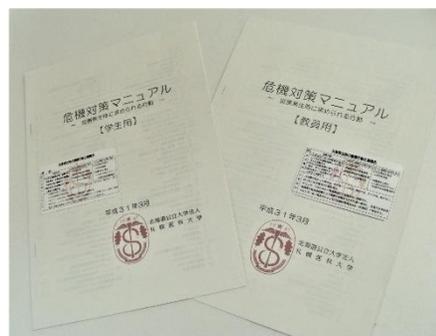
昨年9月に発生した北海道胆振東部地震では多くの尊い命が失われました。この地震では、震源地から離れた札幌市においても、長時間停電となる、公共交通機関が全面的にストップする、各店舗から食料、水、電池等が無くなるなど非常に大きな影響を受けました。急きょ翌日の試験延期を決定するなど緊急対応に追われましたが、こうした災害での対応を今後の教訓として活かせるよう、昨年度末、危機対策マニュアル【学生用】を作成し、本学の災害対応力強化を図っています。

学生の皆さんには、携行しやすく、緊急時に最も重要な自分の命を守るための安全確保の行動をとることなど、災害発生時の避難行動と避難先、大学への安否報告の手順を記載した学生証サイズの「災害対應用カード」を先に作成し配付しており、今回作成・配付している危機対策マニュアル【学生用】と合わせて活用することで、防災力がより向上するものと考えています。

マニュアルは、災害対応カードにも記載している災害発生時の基本行動、地震、津波、火山噴火、風水害、雪害、大停電など幅広い災害への対応の基礎知識、特に地震と火災の避難を含めた詳細な対応手順、休講措置・開講措置、胆振東部地震時の具体的な学生支援の対応の紹介など構成しています。

災害対応カードは常に持ち歩き、いざという時に活用する、危機対策マニュアルは普段、しっかりと読み自分の知識として身に付けておくことが、災害時に自分のいのちを守ることに繋がります。

本学ではこうした万一の場合に、学生と教職員一人ひとりが自覚をもって、災害の影響を最小限とするよう日常的な備えの充実に取り組んでいます。



(事務局学務課)

## 平成30年度卒業生の国家試験合格状況

- 看護師国家試験は50名が受験し、全員が合格しました。(合格率100%)  
看護師国家試験16年連続合格率100%を達成しました！！
- 保健師国家試験は10名が受験し、全員が合格しました。(合格率100%)
- 理学療法士国家試験は19名が受験し、全員が合格しました。(合格率100%)
- 作業療法士国家試験は20名が受験し、全員が合格しました。(合格率100%)

※合格率(全国平均)

- 看護師国家試験…89.3%
- 保健師国家試験…81.8%

- 理学療法士国家試験…85.8%
- 作業療法士国家試験…71.3%



# 平成30年度 保健医療学部表彰

保健医療学部では、毎年度、本学部を卒業する学生と進級制限が設けられている2年生を対象に、学業成績および人物が優秀で他の範となる学生を最優秀者、優秀者として表彰する制度を設けています。平成30年度は以下の学生が表彰されました。

## 卒業生表彰者

### ○ 最優秀賞

- ・看護学科 (朝比奈嫩葉賞) 河原 央佳
- ・理学療法学科 (理学療法賞) 根岸 奎輔
- ・作業療法学科 (作業療法賞) 三上 あゆみ

### ○ 優秀賞

- ・看護学科 高瀬 柚衣
- ・理学療法学科 玉井 勝是
- ・作業療法学科 佐藤 あやの

## 2年生表彰者

### ○ 最優秀賞

- ・看護学科 田口 菜温
- ・理学療法学科 山崎 夏海
- ・作業療法学科 芦澤 理香

### ○ 優秀賞

- ・看護学科 南 アリア
- ・理学療法学科 山内 菜緒
- ・作業療法学科 吉田 唯乃



## 2年生表彰者の受賞コメント

### ☆田口 菜温 (看護学科・最優秀賞)

この度は看護学科の最優秀賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。これまで勉学に励むことができたのは、先生方や先輩方、看護学科の友人達、家族のおかげです。多くの方々への感謝の気持ちや2年間で学んだことを忘れず、理想とする看護師像に近づけるよう努力していきます。本当にありがとうございました。

### ☆南 アリア (看護学科・優秀賞)

この度、優秀賞を授けて頂き、大変嬉しく思います。これまで、家族や友人をはじめ、多くの人々に助けられてきました。これからは、より専門的な知識を身につけていくこととなります。今まで以上の努力が必要になると思いますが、日々感謝の気持ちを忘れず、向上心を持って勉学に励んでいきたいと思っております。

### ☆山崎 夏海 (理学療法学科・最優秀賞)

この度は理学療法学科の最優秀賞を頂き大変嬉しく思います。今の私がいるのも、いつも背中を押してくれる両親、熱心に指導して下さる先生方、多くの時間を共にし切磋琢磨しあえる同期のおかげであると日々実感しています。今後もこの賞に恥じないよう、努力を怠ることなく精進していきたいと思っております。

### ☆山内 菜緒 (理学療法学科・優秀賞)

この度は優秀賞をいただき、とても嬉しく思います。この二年間は勉強と部活とアルバイトをうまく両立させることを目標に頑張ってきました。かなり大変な時期もありましたが同期との協力や地元にいる家族の応援もあり、何とか乗り越えることができました。今後はさらに忙しくなるとは思いますが、精一杯頑張っていきたいと思っております。

### ☆芦澤 理香 (作業療法学科・最優秀賞)

この度は、このような賞をいただき大変光栄に思います。私が2年間頑張ってきたのは指導して下さった先生方、一緒に勉強してくれた同期のみんな、陰ながら支えてくれた家族のおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。残りの2年間もコツコツと勉強を重ね自信を持って作業療法士として働けるように頑張っていきたいです。

### ☆吉田 唯乃 (作業療法学科・優秀賞)

この度は作業療法学科優秀賞をいただき大変嬉しく思います。このような賞を受賞できたのも、この二年間の周りの支えがあったからこそだと思っており、感謝の気持ちでいっぱいです。今後もこの賞に恥じぬよう勉学に励み、努力を続けていきたいと思っております。

